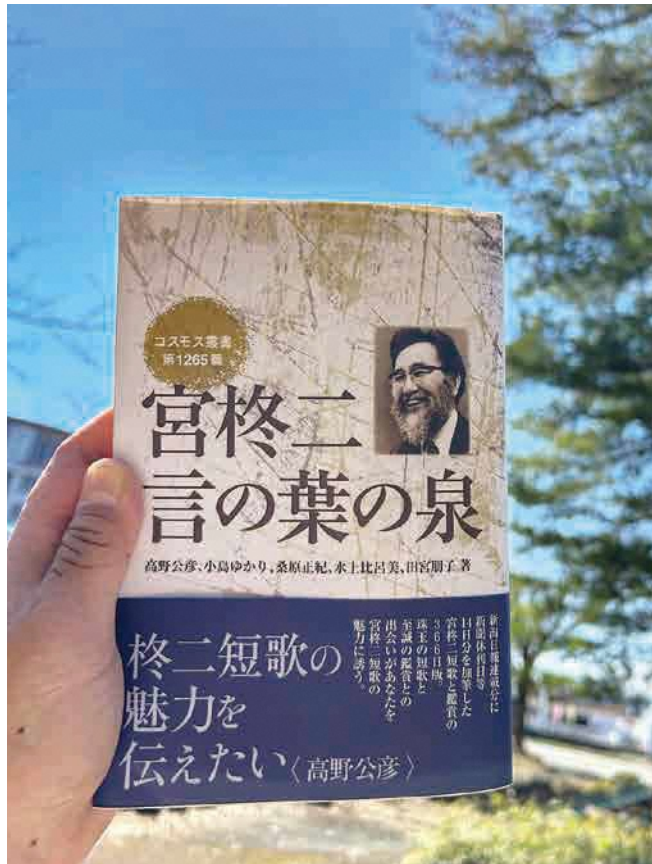


宮柁二記念館だより



- 令和7年度 宮柁二記念館事業のご紹介
- 令和8年度事業予定—新しい取り組みと展示予定—
- 【とじ込み】第31回宮柁二記念館全国短歌大会 上位入選作品



受け継ぎ、繋げる 館長二年目の抱負

二〇二五年の四月より館長を務めております、林あゆみと申します。

宮柁二と同じ堀之内町（現魚沼市堀之内）出身、四十四歳です。館長に就任してからの一年は、周りの方々に支えていただきながら奮闘するうちに、あっという間に過ぎてしまいました。館長という仕事は一筋縄ではいかないことも多いですが、その難しさも含めて面白さを感じています。国立の文化施設でさえ財政的に厳しいとされる昨今、小さな文学館である宮柁二記念館も例外ではありません。しかし、小さな施設だからこそできることもあると感じています。二年目は、宮柁二記念館のこれまでの歴史を受け継ぎながら、新たな取り組みを試す年にしたいと考えております。地元の大先輩の名前を冠したこの施設を守り、未来に繋げるために、歩みを止めず、試行錯誤してまいります。

令和7年度

宮柊二記念館事業のご紹介

令和7年度も皆様のご協力のもと、多くの事業を実施することができました。
〈展示事業〉〈短歌普及事業〉〈講演事業〉〈研修・見学事業〉に分類して、一部をご紹介します。

展示事業

2つの展示室とホールスペースを利用して展示を行っています。



企画展『教科書の中の宮柊二』展

昭和、平成、令和、それぞれの時代の教科書に掲載された宮柊二の短歌を紹介する展示です。長く教科書に載り続けている短歌もあり、親子で同じ短歌を学んだことがある方もいるかもしれません。多くの校歌制作に携わった宮柊二の作詞家としての側面も紹介しています。学校の机と椅子を置き、教科書を閲覧できるコーナーも設置しました。

短歌普及事業

短歌の普及啓発活動に年間を通して取り組んでいます。



短歌出前授業（学校向け）

魚沼市内の学校を中心に、出前授業を実施しています。対象学年、実施時期、目的に合わせて作成した資料を使って指導します。講師はコスモス短歌会魚沼勉強会の皆さんに依頼。地域の子供たちが短歌文化に触れる機会として、長年続く事業です。

R7年度 出前授業実施校 7/14 新潟県立小出高等学校 8/29 魚沼市立堀之内小学校 2/13 魚沼市立湯之谷中学校



初心者のための 短歌講座

令和7年度で2回目となる初心者向けの短歌入門講座です。基礎知識や歴史から、現代短歌の鑑賞、短歌の作り方で学ぶことができます。生涯続けられる趣味としての短歌を幅広い世代に提案する、全3回の講座です。

宮柊二記念館 短歌教室

月に1首、短歌を提出し、講師の添削指導を元に、歌会形式でお互いの作品について講評し合う短歌教室です。初心者も大歓迎です。年度内9回開催しています。

※参加者随時募集中。詳細は4ページに掲載。

研修・見学事業

歌人・宮柊二について、短歌について、地域の文化について、学ぶ場として研修や見学に活用されています。

■ 魚沼市内中学校国語科教員研修

館内見学、宮柊二紹介映像視聴など、施設についての理解を深めていただきました。授業での短歌指導について、意見交換も行いました。

■ 職場体験受け入れ

魚沼市立堀之内中学校、魚沼市立湯之谷中学校、2校の職場体験を受け入れました。生徒の関心に沿った体験ができるよう計画しました。

講演事業

宮柊二に関連した様々なテーマで講演会を開催しました。
会場はすべて魚沼市中央公民館(堀之内公民館)大ホールです。



講師の福土りかさん(左から3番目)と受講者の皆さん

企画展記念講演会 『教科書の短歌と宮柊二』

講師は歌人の福土りかさん(コスモス短歌会)です。歌人と国語教員という二つの視点から企画展の内容に合わせてご講演いただきました。教育現場での短歌の位置づけや取り扱われ方など、当館の運営のあり方を考える上でも非常に参考となる内容でした。

(令和7年6月22日(日)開催)



講師の水上比呂美さん。演台には講演内容にちなんだお花を飾りました。

宮柊二講座 『宮柊二と花の歌』

講師は歌人の水上比呂美さん(コスモス短歌会)です。宮柊二の短歌の中から、花や植物を詠んだ歌を解説いただきました。真夏の開催でしたが、柊二短歌の中にある植物に思いを馳せ、爽やかなひとときとなりました。(令和7年7月27日(日)開催)



講師の黒石孝さん(前列右から2番目)。講演前にはコスモス系魚川勉強会、魚沼勉強会の交流会も開催されました。

短歌セミナー 『宮柊二と相馬御風』

講師は歌人の黒石孝さん(コスモス短歌会)です。宮柊二の初めの短歌の師である相馬御風との交流について、エピソードや詠まれた歌、生まれ育った風土の違いから考察していただきました。宮柊二という歌人の人生について理解が深まる講演でした。

(令和7年12月14日(日)開催)



▶▶▶ 過去の講演動画はYouTube「魚沼市公式チャンネル」からもご覧いただけます(一部講演は除く)

❖ 令和8年度の事業予定 ❖ 新しい取り組みと展示予定をご紹介します ❖

7月開設予定

短歌の本棚

当館の蔵書の閲覧コーナーを開設予定です。貴重な研究書から話題の歌集まで言葉の世界にゆっくり浸ることが



できるスペースを目指しています。

短歌のなかの

私たち

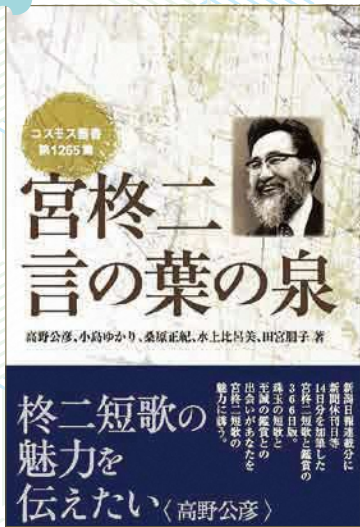
令和八年度企画展

宮柊二記念館全国短歌大会
三十二年の歩み

入選作品やエピソード、
選者の言葉から短歌大会の
歴史を振り返ります。
一首一首に込められた
想いをたどり、三十二年の
歩みを映し出します。

解説入りで
読みやすい

柗二短歌の豊かな魅力をあなたに



新潟日報連載
待望の書籍化

魚沼が生んだ戦後を代表する歌人
宮柗二の珠玉の歌を366日分収録
未永く読み継ぎたい一冊です。

『宮柗二 言の葉の泉』 宮柗二記念館にて好評販売中

令和5年度、新潟日報一面にて連載された『宮柗二 言の葉の泉』が一冊の本になりました。コスモス短歌会の歌人による解説で、鮮やかに浮かび上がる366首の魅力をお楽しみください。新たな宮柗二入門書として、短歌に馴染みのない方にもおすすめです。

〈解説〉

高野 公彦 (4～6月) 小島ゆかり (7～9月)
桑原 正紀 (10～12月) 水上 比呂美 (1月)
田宮 朋子 (2～3月)

宮柗二記念館 短歌教室

講師の添削指導と、参加者同士の作品鑑賞を行う短歌教室です。見学申し込みも随時受付中(宮柗二記念館までお問合せください)。

- 毎月第2日曜日 10:00～12:00
(一部日にち変更あり、7月、12月、2月はお休み)
- 会場：魚沼市中央公民館(堀之内公民館)
- 講師：黒石 孝さん(コスモス短歌会)
- 年会費 3,000円
※年度途中の入会も可能(会費は同額です)



最新情報はこちらからどうぞ
宮柗二記念館ホームページ

- 宮柗二略歴
- 講演会や企画展の情報
- 宮柗二記念館全国短歌大会情報
(応募要項は4月～5月頃更新)



QRコードからもご覧いただけます→

宮柗二記念館「友の会」のご案内

宮柗二記念館の活動を支援して下さる会員を募集しています。当館の事業や取り組みにご賛同いただける方のご参加をお待ちしております。年会費は1,000円です。宮柗二記念館窓口にてお申込みいただけます(遠方にお住まいの方は電話にてお問合せください)。

会員特典

- 入館料無料(通常 大人400円/子ども200円の入館料が無料となります)
- 宮柗二記念館だよりや各種のお知らせをお届け(不定期 年間数回)

宮柗二記念館だより 第63号 発行：2026年3月31日

お問合せ 宮柗二記念館(〒949-7413 新潟県魚沼市堀之内117-6) TEL・FAX 025-794-3800
メール miya-museum@city.uonuma.lg.jp ホームページ <https://www.city.uonuma.lg.jp/site/miyashuji/>

第31回 宮柊二記念館全国短歌大会入選作品

素晴らしい作品のご応募ありがとうございました。全ての入選作品が掲載された「入選作品集」は宮柊二記念館でご覧いただけます（宮柊二記念館ホームページでも公開中）。

一般部門

最優秀賞

雪の日に生まれて母の名は「みどり」春待つ祖父のこころを思ふ

眞庭 義夫（群馬県利根郡）

選者賞

「またね」とは祈りの言葉明日知れぬ世の騒がしき、またね、またいつか

（三枝浩樹選）

久保 澄子（栃木県那須塩原市）

選者賞

父眠る大陸からの黄砂きてわれの車を静かにつつむ

（田中愛子選）

平澤 恵美子（新潟県魚沼市）

魚沼市長賞

花の名をたづぬる写メール届きたり女の子やさしくノックすること

吉仕 節子（新潟県長岡市）

新潟日報社賞

「ばあちゃんはお空にいるの？」無垢な眼に「いるよ」と返すかのような青

伊藤 理奈（新潟県三条市）

最優秀賞

びょういんで出会った友達元気かなおんなじ空をみてるといいな

佐藤 翔太（小千谷市立小千谷小学校）

選者賞

五の私ママにくつつきたがるけど十二の私がストップかける

（三枝浩樹選）

小宮山 維織（上越市立直江津南小学校）

選者賞

弟と二人だけで行く映画館主人公よりぼうけんしたよ

（田中愛子選）

須貝 律香（村上市立金屋小学校）

魚沼市長賞

学校からずっとけつてきた小石もうすぐ家で小川におちる

西多 晃都（鴻巣市立鴻巣中央小学校）

新潟日報社賞

まいにちをげんかんすごすフレブルはそのけしきもおともだちだね

岡本 要（魚沼市立小出小学校）

選者賞

朝ごはんパンのにおいて目がさめた今日はなんだかい日になりそう

（三枝浩樹選）

糸賀 涼星（新潟市立亀田中学校）

選者賞

夏の夜蛍見に行く桂川スマホで撮れぬやさしいひかり

（田中愛子選）

加藤 亜樹（長岡市立山本中学校）

魚沼市長賞

前日の親子喧嘩のモヤモヤが「おはよう」の声でリセットされる。

星野 莉来（新潟市立岡方中学校）

新潟日報社賞

かがやきにふれたあの日の舞台からとまった夢がまたうごきだす

鶴若 愛華（長岡市立南中学校）

選者賞

思い出はいつか旅立つ日のための大事なお守り覚えていてね

（三枝浩樹選）

太田 実来（神奈川県立光陵高等学校）

選者賞

ガラガラと窓を開ければ春の風もうすぐここが思い出になる

（田中愛子選）

岩澤 里菜（神奈川県立七里が浜高等学校）

魚沼市長賞

父さんと二人釣り場で将来の夢語る時波音静か

五十嵐 有崇（東京学館新潟高等学校）

新潟日報社賞

少年と呼ぶのに期限があるのなら迷彩柄は押し入れの中

石井 桃衣（神奈川県立光陵高等学校）



本大会の入選作品講評の様子は
「魚沼市公式YouTubeチャンネル」
からご覧いただけます(表彰式出席者の作品を講評)

選者のことば

「第31回宮柵二記念館全国短歌大会 入選作品集」より再掲

三枝 浩樹



宮柵二記念館全国短歌大会にみなさまから寄せられた作品、その数に圧倒されながら選歌をいたしました。小学生の部、中学生の部、高校生の部、一般の部、それぞれの年代のとらえた世界、見ている風景、暮らしの気分が作品に投影されていて、じわじわと感銘を覚えた次第です。短歌というみじかい詩形は長すぎず、短すぎず、なかなかいいものだなあ、と改めて実感いたしました。

「一人の心は万人の心 文化の根源はここにある」とは前田晁(近代の文学者で「文章世界」の編集者)の言葉ですが、まさにその通りだと思います。あなたが実感したこと、きみの心に浮かんで過ぎてゆく感情は、やがては全ての人々の心を通してゆく感情であり、感のさざなみでもあって、共通し共有できる普遍性をもったものだという考えです。文化というものの根源はそこにある、と言っているのですね。短歌という詩形の魅力と可能性をうまく言い表している言葉としても味わえます。

びょういんで出会った友達元気かなおんなじ空をみてるといいな 小学生の部

朝ごはんパンのにおいで目がさめた今日はなんだかいい日になりそう 中学生の部

思い出はいつか旅立つ日のための大事な大事なお守り覚えていてね 高校生の部

「またね」とは祈りの言葉明日知れぬ世の騒がしさ、またね、またいつか 一般の部

こんな歌を詠んだ作者の方に表彰式でお目にかかるのを楽しみにしています。短くて、しかも豊かな陰翳^{ニヤシス}を湛えた歌の魅力！

田中 愛子



この度、宮柵二記念館全国短歌大会の選者のお話をいただき、光栄に存じながらも、任の重さにとても緊張いたしました。選歌をするにあたり、私が恐れているのは、いい歌を見落としてしまうことです。しかし、この度は選歌を一緒にさせていただく選者が三枝浩樹氏とお聞きし、大きな船に先導される思いで、とても心強く選歌を進めることができました。心より感謝申し上げます。

こんなにたくさんさんの作品をまとめて拝見するのは初めての経験でした。また、その大半が小、中、高校生の作品ということで、とてもわくわくした時間を過ごすことができました。小学生の作品は、家族のなかでの気づき、犬や猫に対する思いなどがとてもかわいらしく、そのかわいらしさに何回もうるうるしてしまいました。また、中学生、高校生の作品は、青春を詠った生命感にあふれる作品に加え、ほのかな恋心や深い恋情が詠われた作品もあり、熱く、ほほえましく感じられました。

私は埼玉県で講師として短歌教室に参加しておりますが、短歌の入門書について尋ねられた時は、小島ゆかりさんの『短歌入門 今日よりは明日』と宮柵二先生の『短歌実作』を紹介しております。先ごろ桑原正紀さんの『ようこそ、歌の世界へ』が刊行されましたので、これからはこちらもお勧めしようと思っております。先日は、教室に入会された七十代の方が宮先生の作品を読みたくなり、岩波文庫の『宮柵二歌集』をお求めになったとうかがい、とてもうれしく思いました。こちらの歌集は私もリビングや寝室に置いて、いつでも手にとれるようにしています。

これからも宮先生のご縁、コスモスのご縁、短歌のご縁をたいせつにして、たくさんの方の作品と出会いたいと思っています。この度はとても貴重な体験をさせていただきます。心より感謝申し上げます。

田中 愛子 (たなか あいこ)

1954年11月11日 長野県佐久市生まれ。

1976年 裁判所職員となる。長野地方裁判所管内勤務のち、

さいたま家庭裁判所管内勤務を経て2013年退職。

1986年 コスモス短歌会入会。

現在、「コスモス短歌会」選者。コスモス埼玉支部支部長。同人誌「棧橋」を経て「灯船」同人。

現代歌人協会会員。日本歌人クラブ南関東ブロック幹事。埼玉県歌人会理事。

埼玉文学賞短歌部門審査員。歌集に『二藍』『傘に添ふ』『秋の水深』。

三枝 浩樹 (さいぐさ ひろき)

1946年山梨県甲府市生まれ。高校1年生の夏に短歌を詠み始め「沃野」に入会、

植松壽樹に師事。その後「反措定」「かりん」「りとむ」を経て、「沃野」に復帰。

現在「沃野」編集発行人。2016年「二〇一五年夏物語」(第52回短歌研究賞)、

2017年『時禱集』(第22回若山牧水賞、第52回迢空賞)。2018年第42回野口賞、

山梨県文化賞特別賞を受賞。歌集に『朝の歌』『銀の驟雨』『世界に献ずる二百の祈禱』

『みどりの揺籃』『歩行者』『時禱集』『黄昏』。評論集に『八木重吉 たましひのスケッチ』

『抑制の美学 植松壽樹ノート』(近刊)。